様式 C-19

科学研究費補助金研究成果報告書

平成２３年　６月１０日現在

機関番号：８２６６８
研究種目：基盤研究（C）
研究期間：2008～2010
課題番号：２０６０５０１７
研究課題名（和文）
「博物館学」の知の導入と連携による公園の博物館的機能展開手法の開発に関する研究
研究課題名（英文）
Development of Museum-like Facilities in Parks by Introducing Museology
研究代表者
堀江　典子　（HORIE NORIKO）
（財）公園緑地管理財団（公園管理運営研究所）研究部主任研究員
研究者番号：７０４５５４８４

研究成果の概要（和文）：
本研究は、博物館と公園との重複傾向を踏まえ、公園における博物館的機能の充実を図ることを目的としている。博物館と公園の機能の相違を博物館的機能（収集、保存、調査研究、展示、教育）及び公園的機能（レクリエーション、環境保全、景観形成、防災）の観点から整理して、役割分担と連携について検討し、都市公園における博物館的機能導入は「園内資源の保全と活用による、公園としての価値及びサービスの向上を通じた社会貢献」であることを提示して具体的な展開手法案を提案した。

研究成果の概要（英文）：
The purpose of this study is to enrich museum-like facilities in parks in view of the fact that parks and museums have been overlapping. After arranged and analyzed differences and common features among museum-like facilities and park-like facilities, we discussed about the division of roles and the cooperation between parks and museums. Then, we show museum-like facilities in urban parks are “the social contribution through increasing both value and service by conserving and practical using park resources on the site”.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合　計
２０年度	８００，０００	２４０，０００	１，０４０，０００
２１年度	８００，０００	２４０，０００	１，０４０，０００
２２年度	７００，０００	２１０，０００	９１０，０００
年度			
年度			
総　計	２，３００，０００	６９０，０００	２，９９０，０００

研究分野：都市環境学、造園学
科研費の分科・細目：博物館学
キーワード：博物館、公園、造園学、展示解説、運営管理

１．研究開始当初の背景

本研究の着想は、近年、博物館領域と公園領域が空間的及び機能的に重なる傾向が顕在化してきたことを背景としている。博物館と公園は市民が健康で文化的な生活を送るために都市に不可欠な施設として位置付けられ、世代を超えて受け継がれ、それぞれの機能を担ってきた別個の施設である。しかしながら、近年では従来からの役割に加えて観光振興やまちづくりなど地域活性化、環境教育や体験学習、伝統文化継承、コミュニティ形成などの場としての活用が図られるようになり、この傾向は今後も更に顕著になっていくと予想される。一方で、博物館も公園も

指定管理者制度の導入が進む中にあるため管理運営の質の向上とその評価のあり方が模索されており、それぞれの担うべき機能について議論がなされる必要がある。

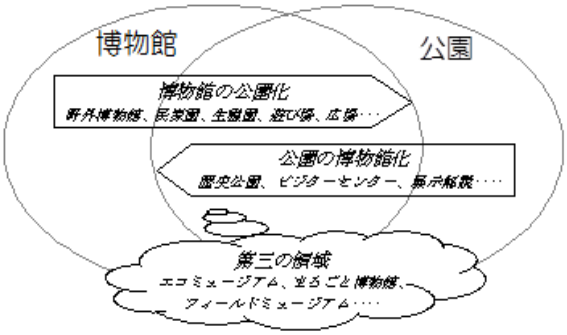

図１　博物館領域と公園領域の重複（概念図）

２．研究の目的

本研究は、博物館と公園との関連性を整理し、補完と連携のあり方を追求することによって、公園における博物館的機能の充実を図り、公園管理運営の現場で展開できる手法を開発することを目的としている。

３．研究の方法

本研究は、平成 20 年度から 22 年度の 3 箇年にわたり、以下の手順により行われた。

(1) 博物館の公園化、及び公園における博物館化の現状を文献調査及びヒアリング等により把握、分類、整理。
(2) 博物館及び公園の定義、概念、機能等について文献調査から整理。
(3) 博物館･博物館類似施設等への公園領域からの技術的提案･貢献の可能性を整理。
(4) ヒアリング等による事例調査。
(5) 以上により、博物館と公園との空間的･機能的な関連性と問題点、課題を整理。
(6) 博物館と公園の役割分担を明確化。
(7) 特に都市公園における博物館的機能のあり方を、博物館との連携、管理運営方法及び評価方法を含め検討。

４．研究成果

(1)博物館の公園化

①博物館の公園化の現状

博物館の公園化とは、屋外緑地の空間的、機能的付加、公園的名称の使用などが生じることである。博物館の多様化の過程で、収集展示対象の拡大、展示スタイルの変化による野外博物館、民家園、生態園などの野外展示空間の展開や、博物館の建物に付随する屋外空間としての遊び場、散策路、広場等の充実といった公園化のアプローチが見られる。

②野外博物館に見る公園化

野外博物館は、主要な展示物が屋外に点在し、人々が園内を周遊しながら展示物を見学する形をとる。博物館の一形態ではあるが、非常に公園的な空間構成を持っている。野外博物館の発展には、古民家を中心とする人文系の野外博物館と並行して、自然系の野外博物館の流れがある、両者には成立発展過程に相違があるが、近年では展示対象の拡大等により融合しつつある。

我が国においては、野外博物館的施設として解釈することのできる施設は数多いが、館自体が野外博物館であることを公表している館は多くない（2009 年 10 月時点で 15 館を確認したにとどまる）。海外における代表的な事例であるスカンセンとオランダ野外博物館のヒアリング等現地調査からは、社会的使命を明確に意識伝えること、動植物管理を通じた貢献、学校団体の重視、国情によるボランティアの考え方の違い、利用調査による満足度の重視、などが明らかになった。

(2)公園の博物館化

①公園の博物館化の現状

公園の博物館化とは、公園における収集保全、調査研究、展示教育といった博物館的機能の導入のことである。公園内における展示解説等を目的とした施設やルートの設置、解説のためのパンフレット作成やプログラム運用などが典型例である。自然公園、都市公園、その他公園の種類によってやや異なるものの、博物館化は、公園の敷地内にどのような自然的あるいは人文的に保存する価値のある資源、調査研究や展示解説の対象となりうる資源が存在しているかによるところが大きい。

②国営公園における博物館化

一つの都府県の区域を超えるような広域的見地、あるいは国家的な記念事業として、または我が国固有の優れた文化的資産の保存と活用を図るために設置される国営公園は、多くの自然的･歴史文化的資源を有する。展示施設の設置、古民家等の収集保存が行われ、地域野生植物等の保全復元の取り組みもある。資源の保全と利活用の観点から、適切な博物館的機能の展開が求められている。

③公園の博物館化における課題

1)博物館的機能面における問題点

収集保全機能に関しては、近年、生物多様性の観点から地域固有種等の生育空間として公園は重要度を増している。しかし、園芸品種を中心とした収集の歴史と技術はあるものの、絶滅危惧種や地域固有種の収集と保護育成技術は模索の段階で、今後の大きな課題である。また、歴史文化的資源が公園化される場合、展示解説等博物館的な機能を担うことへの期待は大きいものの、公園空間としてレクリエーション機能の比重が大きくな

るため保存と利用のバランスが問題となる。さらに、専門性を持つスタッフが不在では、展示施設等のハード面が初期整備されてもソフト面を支える体制が担保されない。

展示解説機能については、近代的設備は設置当初は目新しくても時代遅れとなったり、メンテナンスが不十分な場合もある。公園の資源は建物の中でバーチャルに疑似体験するものではなく、実際に足を運んで、季節や気象状況も含めた屋外環境の中で接し感じられるものであり、この特徴を最大限に活かすような展示解説が求められる。また、歴史文化的な資源を復元している場合には、庭や田畑など周辺環境の時代や状況設定の妥当性について外部の専門家や他機関等の助けを借りる必要がある。

調査研究機能については、公園においては最も弱い部分である。体制、予算がない状況で他機関との連携等なしに自前の調査研究体制を保持することは困難であろう。

2)指定管理者制度面における問題点

指定管理者制度の問題点についての指摘は少なくない。公園の博物館化においては特に継続性と評価が問題である。

継続性については、指定管理期間は3年から5年程度の期間で設定されるため、例えば、日本庭園の伝統的管理技術の継承が担保されないなど人材育成ができない、長期間の観察とケアを必要とする植物の育成管理ができない、調査研究が制約されるなどの問題がある。保存継承すべき無形の資源の価値を、公園においても認識すべきであろう。

評価については、指定管理者制度の導入が行財政改革と経費削減を至上命題とするため、確保すべき本来的機能とそのレベルに明確なコンセンサスがなければ、コスト削減競争のなかで管理運営レベルの劣悪化、近視眼的な即効性のある企画の偏重につながる。機能評価のあり方が検討される必要がある。

3)課題解決の可能性

第一に、博物館的機能の導入の前提として、その公園の使命を明確にすることである。それによって、管理運営上のコンフリクトに対する考え方と、評価におけるウェイトや優先順位を判断する拠り所とできる。

第二に、地域の他の機関（博物館や研究機関等）との連携を進め、公園をフィールドとした研究に広く門戸を開き、その成果を管理運営に反映できる仕組みをつくることである。また、博物館ボランティアとの連携によって、公園における博物館的機能導入をサポートする体制を構築することができる。

(3)第三の領域における博物館と公園の重複

博物館の公園化でも、公園の博物館化でもない第三の範疇として考えられるのが、エコミュージアム、フィールドミュージアム、まるごと博物館、などである。

エコミュージアムとは、1960年代後半にフランスで生まれた、地域活動としての博物館活動である。我が国では1989年に朝日町エコミュージアム研究会が発足して以降、各地で様々に取り組まれているが、エコミュージアムと名付けられた事例の全てが本来の定義を十分に反映させているわけではない。まるごと博物館も、エコミュージアム的な考え方を基本としているが、定められた定義はない。フィールドミュージアムは、特定のフィールドを博物館的なものとして位置づけることで何らかの効果を期待しているが、明確な定義はなく、実態は様々である。この他、農林水産省のプロジェクトである田園空間博物館をはじめ、「博物館」「ミュージアム」といった言葉を用いて空間をとらえてまちづくりに活用しようというプロジェクトや計画等が各地で出現している。

(4)博物館と公園の重複による課題と可能性

①重複による課題

機能拡大・多機能化の課題：機能拡大、多機能化による核施設の充実は、多様化する利用者ニーズに対応し、施設の魅力を増す。反面、予算的にも体制的にも縮小傾向がある中での新たな機能付加は担当者のオーバーワーク、管理水準の低下、本来的機能の圧迫につながる。当該施設の使命、機能のプライオリティを明確にした取り組みが必要である。

評価の課題：博物館領域においては、存在意義にかかわる議論と並行して評価が模索されてきたのに対し、公園領域では実際的な評価導入はあるものの博物館ほどの根本的な議論にはつながっていない。適正な評価を行うために、博物館と公園のそれぞれの使命をあらためて整理し確認しておく必要がある。

イメージの混乱：公園的名称を冠した博物館の殆どは、屋外空間が中心で公園的な施設として違和感はなくイメージの混乱は生じにくいが、公園に博物館的な名称が付ける場合には、知的欲求を満足させられるレベルの展示解説等がなければ来園者は失望する。さらに、フィールドミュージアムのように何でもありの多様な用いられ方がされてしまうと、共通したイメージの持ちようがなくなり、ミュージアムや博物館という言葉の価値まで損なうことになりかねないと懸念される。

②役割分担と連携の可能性

役割分担としては、環境保全機能、景観形成機能、防災機能について、公園がこれらの機能の実践の場（空間）であるのに対して、博物館はこれらの機能に関しての歴史と文化の記憶を収集、記録し、次の世代に継承していく場（機関）として位置づけることがで

きる。言い換えれば、公園がこれらの機能を享受する今の生活そのものであるのに対して、博物館はこれらの機能に関して歴史から学ぶ機関なのである。このことを公園と博物館の役割分担であるとすれば、両者の連携によって、歴史文化、環境、健康、平和等々、我々共有の財産を、将来に向けてより良く伝えていく使命を担っていくことができる。

表１　博物館と公園の機能の特色

	機能	博物館	公園
博物館的機能	収集	・　テーマに関連する価値ある資料の収集	・　園内資源の確認 ・　関連する資源の収集
	保存	・　収集資料の保存	・　動植物種を生息環境ごと保全 ・　文化財等を周辺環境含めて保全
	調査研究	目的としての調査研究 ・　収集資料に関する学術的調査研究	管理手段としての調査研究 ・　園内資源に関する調査研究
	展示	・　収集資料の公開 ・　収集資料に関する普及啓発	・　園内資源の利活用によるサービス ・　園内資源に関する普及啓発
	教育	・　教育機関としての責務	・　園内資源の利活用によるサービス ・　園内資源に関する普及啓発
公園的機能	レクリエーション	手段としてのレクリエーション ・　楽しみながら学べる、親しみやすさの演出 ・　博物館への誘客	目的としてのレクリエーション ・　散策、休養、娯楽、健康増進、スポーツ、癒し等
	環境保全	・　環境保全の意義の解説	・　空間及び自然資源（緑･水･土）による環境保全
	景観形成	・　デザインによる景観の提供 ・　景観資源の収集、調査研究、展示解説	・　緑地による景観の提供 ・　四季の変化、潤いの提供
	防災	・　防災の歴史、記憶、知恵の蓄積と継承	・　避難場所、防災用品備蓄、延焼防止など防災空間の提供

(5)都市公園における博物館的機能の展開

①都市公園における博物館的機能の考え方

必要性：園内資源の保全と利活用、公園としての価値向上、サービス向上あるいはニーズ対応、普及啓発及び教育、の観点から必要。

公園本来の機能と博物館的機能との関係：博物館的機能導入によって、公園としての本来の機能との相乗効果を期待できる場合もあれば、逆にコンフリクトが生じる場合もある。

表２　機能間の相乗効果及びコンフリクト

		公園的機能			
		レクリエーション	環境保全	景観形成	防　災
博物館的機能	収集	○収集への市民参加による知的レクリエーション	○資源の評価・収集	○ 景 観 資 源 の 評価・収集	○防災の記憶の収集
	保存	●オーバーユース	○空間及び自然資源（緑･水･土）による環境保全 ●オーバーユース	○景観資源の保存 ●オーバーユース	○防災の記憶と知恵の保存
	調査研究	●調査研究のレベルの確保	○モニタリング	○モニタリング	○地域防災の拠点化に関する調査研究
	展示	○知的レクリエーションの提供	○環境教育、普及啓発	○景観の実物を展示物として提供	○防災の記憶・知恵の継承
	教育	●展示教育レベルの確保		○景観教育	

目的：都市公園における博物館的機能導入の目的は、「園内資源の保全と活用による、公園としての価値及びサービスの向上を通じた社会貢献」である。

基本方針：都市公園における博物館的機能の導入は、その目的を達成するために、博物館との機能的相違、公園本来の機能と博物館的機能との関係を踏まえ、以下の基本方針でなされることを提案する。

- 博物館的機能導入にあたっては、当該公園の位置づけ、園内資源の状況等に鑑み、社会的使命、存在意義を明確に意識して行う。
- 園内資源の価値を確認、尊重し、持続的に保全を図る。
- 園内資源の利活用にあたっては、資源の価値を損なうことがないように留意するとともに、普及啓発及び教育によって資源の価値を高めるよう努める。
- 博物館的機能導入にあたっては、調査研究成果など学術的根拠を適正に反映させる。
- 地域の関係各機関等と積極的に連携することによって、博物館的機能のより良い展開を図り、協力関係の構築に努める。
- 公園はレクリエーション空間であり、博物館的機能の導入にあたっても遊びや楽しさ、憩い、体験や体感を重視する。
- 市民参加、ボランティアの参画については、参加主体のレクリエーション及び生涯学習の観点に留意する。

②博物館的機能の展開方法

展開の流れ：都市公園における博物館的機能展開の流れを図に示した。

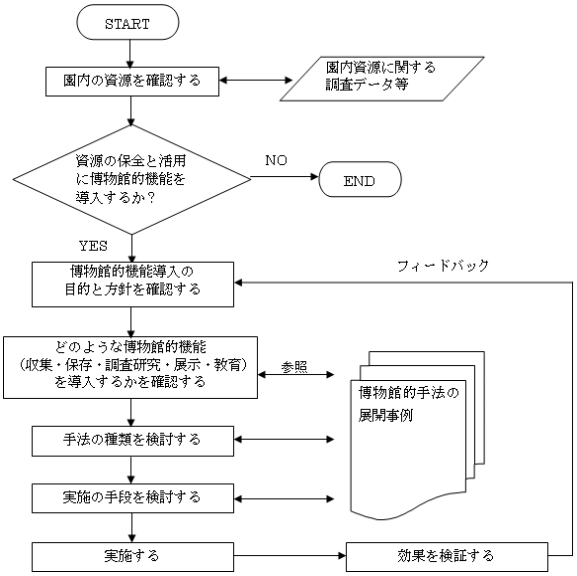

図２　博物館的機能展開の流れ

展開手法の体系：都市公園における博物館的機能展開手法を、機能、手法の種類、実施の手段の観点から整理した。

表３　博物館的機能展開手法の構成

博物館的機能	手法の種類	実施の手段
収集 保存 調査研究 展示 教育	施設 印刷物 人によるガイド プログラム デジタルコンテンツ その他	直営 連携　：博物館、学校、地域、研究機関、企業、NPO、その他 市民参加 ボランティア その他

展開手法案：展開手法案、及び関連する事例を、自然的資源の活用、歴史文化的資源の活用、技術資源の活用、の観点から整理した。

表４　展開手法案の整理シート

事例名	事例名（実施主体、所在地）
博物館的機能の種類	「収集」、「保存」、「調査研究」、「展示」、「教育」から選択して記載
手法の種類	施設（常設 or 仮設、屋内 or 屋外など）、印刷物、パネル、人によるガイド、プログラム、デジタルコンテンツ、などの種類を記載
実施の手段	単独直営 or 連携（連携先）、市民参加、ボランティア、などの種類を記載
概要： （実施の経緯、実施内容、実施体制、経費、スケジュール、特色、成果、課題などを記載） （図表、写真等適宜）	
出典	現地調査、ヒアリング、文献調査など情報入手方法を記載

主な展開手法案：「地域固有種の保全・育成・活用によるみどり文化の継承」「花景観による花卉園芸文化の展示」「参加型モニタリング」「あの時代の生活体験」「公園テクニカルツアー」「防災シュミレーションツアー」

(6)今後の研究課題

公園における博物館的機能の展開は、基本的に園内資源の保全と利活用であるが、資源のオーバーユースと、調査研究及び展示教育におけるレベルの確保が課題であることが明らかになった。レベルの確保については、博物館等他機関との連携によって克服可能と考えられるが、オーバーユース及びアンダーユースの問題、あるいは利用の過度な季節的偏りは、資源の持続可能性に影響を及ぼすた懸念がある。今後、園内資源の利用最適化による持続可能性の追求が求められる。

５．主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 27 件）

1) 平松玲治「国営公園における市民参加活動の導入と展開に関する研究」ランドスケープ研究増刊、査読有、Vol.74No.5、pp565-570
2) 平松玲治、堀江典子、藤田真由美、三浦友明「博物館的機能から見た国営讃岐まんのう公園における自然生態園の管理運営に関する考察」ランドスケープ研究増刊、査読有、Vol.74 増刊、pp.112-115、2011
3) 堀江典子、平松玲治「国営公園における博物館的機能展開の可能性と課題－野外博物館事例調査を踏まえて－」公園管理研究、査読無、pp.14-24、2010
4) 大浦康史「都市公園等における地域野生植物の活用方策について」公園管理研究、査読無、pp.25-29、2010
5) 西川清、平松玲治、堀江典子「地域レベルの文化財的資源を有する国営公園における歴史･文化体験プログラムに関する考察－国営みちのく杜の湖畔公園ふるさと村を事例として」公園管理研究、査読無、pp.30-36、2010
6) 森本千尋、小山直人「市民参加型展示に関する調査研究」公園管理研究、査読無、pp.37-41、2010
7) 西川清、平松玲治、堀江典子「国営公園における歴史･文化学習の取り組みに関する考察－国営みちのく杜の湖畔公園ふるさと村の体験プログラムを事例として」国立青少年教育振興機構研究紀要 青少年教育フォーラム、査読有、第 10 号、pp.85-94、2010
8) Noriko HORIE, Sadatoshi TABATA, Merits of Basin-based Master Plan and Remaining Issues, Journal of Landscape Architecture in Asia,査読有, Volume5, pp.100-105, 2010
9) 堀江典子、平松玲治「公園の博物館化に関する一考察」博物館学雑誌、査読無、第 36 巻第 1 号(通巻 53 号)、2010、pp.61-74
10) 堀江典子「公園における博物館的機能に関する一考察－地域の記憶の継承における都市公園の役割：防災面を中心として－」日本地域学会第 47 回年次大会学術発表論文集、査読無、CD-ROM、2010
11) 平松玲治、堀江典子、大浦康史「博物館的機能から見た国営公園における展示施設の設置状況と管理運営に関する研究」、ランドスケープ研究 研究論文集、査読有、Vol.73No.5、pp. 473-476、2010
12) 平松玲治、堀江典子、川原洋、峰岸徹「国営公園における環境教育の取組に関する考察－国営木曽三川公園のプロジェクトワイルドを事例として－」、国立青少年教育振興機構研究紀要　青少年教育フォーラム、査読有、第 9 号、pp.41-50、2009
13) 堀江典子「博物館領域と公園領域の重複の背景と課題」公園管理研究、査読無、pp.7-13、2009
14) 森本千尋「他施設との比較から見た国営公園ボランティアの意識について」公園管理研究、査読無、pp.14-20、2009
15) 森本千尋「市民参加型展示づくりに関する基礎調査」公園管理研究、査読無、pp.39-42、2009
16) 平松玲治、堀江典子、永留真雄、松田洋、落合美浩「博物館的機能から見た国営武蔵丘陵森林公園における案内解説型プログラムに関する考察」、ランドスケープ研究増刊、査読有、Vol.72 増刊、pp.156-159、2009
17) 堀江典子「博物館領域と公園領域の重複の背景と課題」公園管理研究、査読無、Vol.3、pp.7-13、2009
18) 堀江典子「博物館と公園における機能評価に関する一考察」、地域学研究、査読有、第 39 巻 4 号、pp.855-869、2009
19) 堀江典子「公園的施設としての野外博物館に関する一考察」、日本地域学会第 46 回年次大会学術発表論文集、査読無、CD-ROM、2009
20) 平松玲治、堀江典子「国営公園におけるインタープリテーションプログラムの導入と展開に関する考察」、ランドスケープ研究 研究論文集、査読有、Vol.72No.5、pp. 585-590、2009
21) 堀江典子「フィールドミュージアムの概念と国営公園における展開方向」、公園管理研究、査読無、Vol.2、pp.13-18、2008

22) 森本千尋「国営公園におけるサクラの植栽現況から見た情報発信の課題について」、公園管理研究、査読無、Vol.2、pp.7-12、2008
23) 大浦康史「国営公園における地域野生植物の保全･増殖と情報発信について」、公園管理研究、査読無、pp.19-23、2008
24) 小山直人、平松玲治「国営公園におけるイベント広報チラシに関する研究」、公園管理研究、査読無、pp.24-29、2008
25) 鶴石達、平松玲治、小山直人「国営アルプスあづみの公園大町･松川地区におけるボランティア育成の成果と課題」、公園管理研究、査読無、Vol.2、pp.30-33、2008
26) 堀江典子「博物館と公園における機能評価に関する一考察」、日本地域学会第 45 回年次大会学術発表論文集、査読無、CD-ROM、2008
27) 森本千尋、藤田聡子「国営公園におけるボランティア活動者の意識調査について」、平成 20 年度日本造園学会関東支部大会事例･研究報告集、査読無、第 26 巻、pp. 39-40、2008

〔学会発表〕(計 10 件)
1) Noriko HORIE, Sadatoshi TABATA, Merits of Basin-based Master Plan and Remaining Issues, 第 12 回日中韓国際ランドスケープ専門家会議 2010 ポスターセッション (横浜市開港記念会館)、2010 年 10 月 30 日
2) 大浦康史、青木明代、半田真理子、寺島悦子「都市公園における植物の展示手法の開発－国営昭和記念公園における花ハスを事例として－」平成 22 年度日本造園学会関東支部大会(日本大学)、2010.11.7
3) 堀江典子「公園における博物館的機能の導入に関する調査－野外博物館事例調査を中心として－」第 3 回(財) 公園管理運営研究所研究成果発表会 (国立オリンピック記念青少年総合センター)、2010.10.25
4) 堀江典子「公園における博物館的機能に関する一考察－地域の記憶の継承における都市公園の役割：防災面を中心として－」日本地域学会第 47 回年次大会 (政策研究大学院大学)、2010.10.11
5) 平松玲治、堀江典子、大浦康史 2010「博物館的機能から見た国営公園における展示施設の設置状況と管理運営に関する研究」、(社)日本造園学会 2010 年度全国大会 (名城大学)、2010.5.23
6) 堀江典子「公園の博物館的機能展開手法の開発に関する研究 (中間報告)」、第 2 回(財)公園緑地管理財団研究成果報告会 (国営昭和記念公園花みどり文化センター)、2009.10.29
7) 堀江典子「公園的施設としての野外博物館に関する一考察」、日本地域学会第 46 回年次大会 (広島大学)、2009.10.11
8) 平松玲治、堀江典子「国営公園におけるインタープリテーションプログラムの導入と展開に関する考察」、(社)日本造園学会 2009 年度全国大会 (明治大学)、2009.5.24
9) 堀江典子「博物館と公園における機能評価に関する一考察」、日本地域学会第 45 回年次大会 (公立はこだて未来大学)、2008.10.25
10) 森本千尋、藤田聡子「国営公園におけるボランティア活動者の意識調査について」、平成 20 年度日本造園学会関東支部大会 (東京大学)、2008.10.11

６．研究組織
(1)研究代表者
堀江　典子 (HORIE NORIKO)
(財)公園緑地管理財団公園管理運営研究所研究部主任研究員
研究者番号：70455484
(2)研究分担者
平松　玲治 (HIRAMATSU REIJI)
(財)公園緑地管理財団公園管理運営研究所研究部上席主任研究員
研究者番号：50455482
森本　千尋 (MORIMOTO CHIHIRO)
(財)公園緑地管理財団公園管理運営研究所研究部上席主任研究員
研究者番号：40455481
大浦　康史 (OOURA YASUHITO)
(財)公園緑地管理財団公園管理運営研究所研究部主任研究員
研究者番号：60455483
西川　清 (NISHIKAWA KIYOSHI)
(財)公園緑地管理財団
研究者番号：30455480 (20 年度)
(3)連携研究者　　該当なし
(4)研究協力者
西川　清 (NISHIKAWA KIYOSHI)
(財)公園緑地管理財団昭和公園管理センター所長 (21 年度)
(財)公園緑地管理財団みちのく管理センター所長 (22 年度)
小山　直人 (KOYAMA NAOTO)
(財)公園緑地管理財団公園管理運営研究所研究部主任研究員 (21 年度)
半田　真理子 (HANDA MARIKO)
(財)公園緑地管理財団公園管理運営研究所所長 (22 年度)
青木　明代 (AOKI AKIYO)
(財)公園緑地管理財団公園管理運営研究所研究部研究員 (22 年度)